

うた ひつじの詩だより

2012.5.1
毎月発行 No.134
この裏にはご注文の品と
いっしょにお届けします

‘柱のきずはおとしの’、‘屋根より高いこのほり’、‘卵の花の匂う垣根にほととぎす早も来鳴きて’
5月はつい口ずさんでしまう歌がたくさんあります。

ところで、卵の花ってどんな花？と思い、調べてみますと、ウツギのことで、子どもの頃住んでいた家
にあった馴染みの庭木でした。小さい頃に覚えた歌詞は、大人になってからその意味を知って、「まあ、
そうだったの?!」と驚くことがしばしばあります。

‘夏は来ぬ〜’と気分よく歌ったところで、いくらなんでも季節を先取りしすぎたかしらと思いますが、
5月の初めのちょうどゴールデンウィーク頃が立夏、‘夏も近づく八十八夜’というもまさにこの頃で、
梅雨さえなければ、もう夏なのです。晴れた日には一気に気温が上がるのも納得ですね。

5月のテーブル 「背くらべ」

子どもたちが幼稚園から小学校にかよっていたあいだ、
5月5日に身体測定と称して、扉の枠の部分に身長を書いた
テープでしるしをつけていました。もう大学生や社会人
になっていますが、まだ貼ったままにしています。

5月はいろいろなものがすくすくと育つ気がします。そ
んな気持ちをごこめて。 池上洋子



新一年生や、新緑や、生まれたての動物の赤ちゃんやで、愛しい生
命が満ちあふれるこの季節、まりーさんもそんな元気を貰って、ちょ
っと背伸びな企画を立ててしまいました。1年先に、みんなで、ひつ
じの詩(うた)まつりをするのです。その日まで、あと347日。
特別なことをするのはなく、こつこつと日頃の仕事を丁寧に重ねて
いくことが一番の準備と思っています。お仲間みなさん、どうぞよ
ろしく。

こつこつと言えば、先日、通信講座「ベレの学校」の一環で、一紡ぐーの臨時スクーリング(講師：の
っぽ先生)をしました。紡ぐ道具にも色々ありますが、その日は長めのスピンドル(こま)を使って、膝
の上でころがす方法でしました。スピンドルがコロコロとリズムカルに回転し、スピンドルのピン
の先にあたった毛糸のかすかな打楽器の響きのような手心えが、びん
びんと手に伝わってくると、羊毛の繊維は、するするすると、
まるでヨーヨーのように伸びては引き返す動きで、毛糸に擦られ
ていきます。傍から見たら、これこそ、単純作業のこつこつ仕事
です。もちろん、織ったり、編んだりするために紡ぐのですが、
紡ぐ行為には、何か無目的な哲学的な要素を感じてしまいます。
少なくとも、日常の忙しい時間の流れをしばらく忘れさせてく
れますね。



インドのガンジーさんは紡ぎの道具を、いつも手放さなかった
と、聞きます。ガンジーさんが擦っていたのは綿でしょうか。
紡ぎながら何を想い、どんな思索を展開されていたのか、できる
ことなら、お聞きしたいなと思うまりーさんです。

(今朝のさんぽの途中で出会った子どもたち。いつも犬が大人気なのです。↑)

2013年4月12(金)・13(土)・14(日) 横浜「赤レンガ倉庫」1号館2Fにて、スウェーデンひ
つじの詩舎の作品展を開催いたします。どうぞご期待ください!

〈作品展のおしらせ〉

5月1日(火)~20日(日) 美浜カルチャーセンター
千葉市美浜区真砂 4-2-6 フェリア イズミヤ4F TEL:043-277-3321 担当:小西貴子

5月25日(金)~27日(日) つくば豊里ゆかりの森 管理棟 「響きの森のこだまたち」グループ展
つくば市遠東 676 豊里ゆかりの森 TEL:024-852-0691 担当:木下久子
☆「ぼんぼん鳥」作りのワークショップ、ウォルドルフ人形と服の販売をいたします。オイリュトミー
やライアー演奏なども催されます。どうぞ新緑の森へお出かけください。

ばたぼん通信

手織りに心ふれる

茨城県日立市のシビックセンターギャラリーで、「出会いの空間 2012~経(たて)の糸・緯(よこ)の糸~」という、
「手織り工房糸あそび」主宰の桑原洋子先生と皆さんの
グループ展が開催されました。会場には丁寧に織られた
織細な布や、額装された絵画のようなタペストリー、葛
を織り込んだ織物、仕立てた服やバックなど、どれも
作品への深い愛情が感じられました。

風に揺られて心地よい「蓮池」のオブジェは、布を針
金に縫いつけて表現したもので、色、大きさ、織り方にも
皆さまの個性が表れていて、平面から立体造形へと変
化させ手織りの可能性を探究し続けるという先生の挑戦
的アイディアから生まれた作品のひとつ。蓮は石膏の土台を得たことで安定しその存在感を確立し
ています。もちろん石膏も手作りされたとのこと、先生の飽くなき挑戦はまだまだ続きそうです。

先生作の「椿」は、縦糸は麻の黒糸、背景にはシルクの紡毛糸を使用。椿の紅色には光の中で揺
れる陰影を感じさせるような多用な色が使われていました。葉に
おいても色はもちろん様々な技法で織られ表現されていました。
始めにイメージする絵を描きそれに合う糸を用意するそう
ですが、布を裂いたものや様々な種類の糸を準備し、イメージの色が
なければ足りるまで染めて作り出していきます。とくに「椿」
はお好きな作品テーマで今までに何度も取り組まれているとの
こと。見ている人々に語りかけてくるような、内側から輝く生き
生きとした椿の表現に心動かされました。

図案から準備、制作、完成までの長い道のりの中に詰め込まれ
ている手仕事の奥深さを思うと、ため息が出るようです。会場
に見に来ていたお客様も素晴らしさに感嘆すると共にどうやって
作るのか尋ね、機織り体験へと興味を示していました。早く簡単
に・・・が求められがちな現代だからこそ、じっくりと向き合う手
仕事の大切さを、美しい感動とともに伝えていくことの素晴らし
さを感じる作品展でした。

根本裕美(茨城県日立市在住)

「スペース ベレのあたらしいふく」5月の開店日
1日(火)~15日(火)(日・祝を除く) 10:00~16:30

ホームページ <http://www.s-hitsuji.co.jp/>

編集担当:佐藤治子

♥スウェーデンひつじの詩舎♥
スペース ベレのあたらしいふく

〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2
TEL&FAX 045-881-6900,6665
佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708
相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035